



東京慈恵会医科大学附属病院 母子医療センター

東京都 総合周産期母子医療センター指定（2020年12月）



「こどもたちの健やかな明るい未来のために」

国際性溢れる東京都心の総合周産期母子医療センターとして

24時間365日、良質な母子医療に専心いたします。



私たちができること



最前線の小児・周産期 専門医療

首都圏の地域小児周産期医療の
中核として、救急やリスクの高い
症例に対応します。



産科と小児科が連携した 総合的なチーム医療

産科、小児科はもちろん、関係部門が
連携して、母子に一貫した
チーム医療を提供します。



充実した 産前・産後ケア

臨床心理士やソーシャルワーカーと連携し、
お母さんや赤ちゃん、ご家族への
多面的な支援を行っております。

東京慈恵会医科大学附属病院 母子医療センターのご紹介:

○ 2020年12月1日総合周産期母子医療センター施設指定取得

『人の健全なライフサイクル:発育と発達を守る医療』をコンセプトに本邦初の医科大学附属母子センターとして2001年12月に開設された本センターは、本年2020年1月に重症小児疾患の専門的高度医療と、ハイリスク妊娠出産のための母体集中治療の充実とともに、大学附属病院直結の独立型『母子医療センター』として再スタートを切りました。本センターは『JIKEI MEDICAL Center構想』の一環として、従来分散していた小児系外来・入院診療体制およびCT MRI生理検査などの検査部門を独立型医療センター施設内に集約するとともに、附属病院新外来棟、入院棟、中央診療部門などと有機的に連携する医療を実現しました。

開設とほぼ時期を同じくした新型コロナウイルスパンデミックという全世界的危機に際しては、東京慈恵会医科大学附属病院 母子医療センターにおいてはCOVID-19感染対応診療体制を整備し、東京都要請小児産科症例を積極的に応需するとともに、本来の当センターの使命であるハイリスク周産期小児医療の実践を継続いたしました。このたび2020年12月1日付けで東京都より総合周産期母子医療センター施設指定の取得を達成することができました。皆様方のご支援の賜物と心より御礼申し上げます。

当センターの特色

■ 総合周産期母子医療センターとしての役割

- 周産期医療として24時間無痛分娩の導入予定
- 母体胎児集中治療室の新設と新生児集中治療室(NICU) 拡充によるハイリスク妊娠、母体搬送の100%応需

■ 包括的高次小児医療センターとしての医療

- 小児ガンにおける骨髄移植などの小児科重症疾患の内科治療
- 小児集中治療(PICU)の実践
- 小児外科系専門チームによる手術治療

スタッフ

母子医療センター長

森田 紀代造 (心臓外科学講座教授)

同副センター長

宮田 市郎 (小児科学講座教授、小児科診療部長)

同副センター長

佐村 修 (産婦人科学講座教授・産科診療部長)



森田 紀代造



宮田 市郎



佐村 修

施設認定

- ・東京都周産期医療ネットワーク:総合周産期母子医療センター
- ・東京都小児がん診療協力病院、日本小児がん研究グループ(JCCG)多施設共同臨床試験参加
- ・日本周産期新生児学会専門医制度研修基幹病院認定
- ・日本集中治療医学会ICU症例登録システム(JIPAD)事業参画

総合周産期母子医療センターとしての役割

総合周産期母子医療センターは、胎児集中治療管理室を含む産科病棟、及び新生児集中治療管理室を含む新生児病棟を備え、常時の母体及び新生児搬送受入体制を有して、合併症妊娠、重症妊娠高血圧症候群、切迫早産、胎児異常等母体、又は児におけるリスクの高い妊娠に対する医療、及び高度な新生児医療等の周産期医療を行える医療施設であります。地域周産期医療関連施設等からの救急搬送を受け入れるなど、周産期医療体制の中核として地域周産期母子医療センターその他の地域周産期医療関連施設等との連携を図るとされています。さらに、今般の施設指定にあたり東京都の中央部だけでなく区南部、区東北部、区西部ブロック内で母体搬送の受け入れが困難だった場合に、各ブロックの総合周産期母子医療センターからの搬送受入れに協力することになります。また、港区、中央区の精神疾患合併妊娠産褥婦やCOVID-19等感染症対応の妊娠産褥婦の受入れを積極的に行い、対応可能な範囲で他ブロックからも受入れを行う役目にもなります。

外来診療体制：

産科・周産期部門 (P2-)

産科外来
ハイリスク妊娠外来
胎児診断外来
プレコンセプションケア外来
遺伝カウンセリング外来
助産師外来

小児科部門 (P3-P4)

小児外来	専門外来
小児一般外来	アレルギー外来
乳児検診・予防接種	小児腎臓外来
小児心理外来	小児血液腫瘍外来
	未熟児フォローアップ外来
	代謝・遺伝外来
	小児内分泌外来
	小児神経外来

小児外科系部門 (P5-P6)

小児外科専門外来
小児外科
小児脳神経外科
小児心臓外科
小児形成外科※
その他の外科系小児診療※

※外来棟にて診察となります。(P6参照)

診療内容の特色と実績：

産科・周産期部門

Obstetrics / perinatal department

母体胎児集中治療室の新設と新生児集中医療(NICU)拡充とともに母体及び新生児搬送受入体制を整え、合併症妊娠(重症妊娠高血圧症候群、切迫早産等)、胎児・新生児異常(超低出生体重児、先天異常児等)に対するハイリスク周産期医療の充実、無痛分娩の導入など首都圏の総合周産期母子医療センターとしての責務を担います。



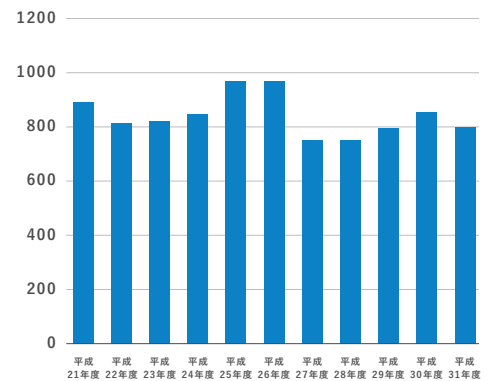
特色

point 01 大学病院であることを活かした、他科との連携による合併症妊娠の最適な治療：ハイリスク合併症妊娠・無痛分娩



佐村 修

母体胎児集中治療室(MFICU)を含む産科病棟および新生児集中治療室(NICU)を備え、母体・新生児搬送の常時受け入れ、母体の救命救急への対応、ハイリスク妊娠に対する医療などを24時間体制で対応しています。大学附属病院と直結し、産科以外にも多岐にわたる専門科があるため、元々ご病気をお持ちの妊婦様や、妊娠糖尿病や妊娠高血圧症候群などの妊娠に伴う合併症を発症された妊婦様も、安全に妊娠・出産ができるように、他科と連携を取りながら診療にあたります。大学附属病院特有のマンパワーを活かし、夜間休日にも産婦人科医3名の勤務態勢を組んでおり安全な医療を提供することが可能です。また産科麻酔科医師による無痛分娩管理にも積極的に取り組んでおり、安全面のみならず妊婦様の満足度も大切に、当院で分娩してよかったと思っただけのようスタッフ一同努力しております。



本院の出生数(年度別)

point 02 胎児診断から、出生後の新生児治療

胎児の疾患に関しては、周産期専門医・遺伝専門医・超音波専門医が中心となって診療を行っています。胎児の疾患を正確に診断するために、胎児超音波検査、胎児MRI検査、胎児CT検査、羊水検査、絨毛検査、母体血を用いた無侵襲的出生前遺伝学的検査(NIPT)などを必要に応じて積極的に行っています。羊水検査、絨毛検査、NIPTは遺伝学的検査のため、遺伝診療部と連携し、遺伝専門医・遺伝カウンセラーが遺伝カウンセリングを行った上で実施しております。胎児疾患を有する妊婦様に対しては、新生児科や小児外科、小児循環器科、小児脳神経外科、形成外科など各専門診療科と連携・協力し、出生前の管理を行い出生後の治療を提供します。

point 03 先進的な基礎研究・臨床研究の推進

母体血中の遊離核酸や胎児細胞を用いた出生前胎児遺伝学的検査、iPS細胞やES細胞を用いた再生医学技術の胎児治療への応用、原因不明・稀少疾患に対する分子遺伝学的解析手法による病態解明など、将来的に新たな診断方法や治療法につながる先進的な研究を、国内の施設と連携をとりながら積極的に取り組んでいます。COVID-19のパンデミックが発症して以降は、国内外の研究機関と協力し、COVID-19が妊婦や胎児に与える影響を調査するための臨床研究なども行っています。様々な研究から得られた新たな知見を、患者様に提供できるよう務めていきたいと考えております。

小児科部門では、出生前小児科から思春期・成人に至るまでのあらゆる年齢の患者さんに対応が可能な診療体制をとっております。さらに小児外科、小児脳神経外科、小児心臓外科、形成外科、泌尿器科、整形外科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、眼科などの外科系スタッフとの協力体制を基盤においた総合的な小児包括医療を推進しております。当科の診療の大きな特色は以下の通りです。

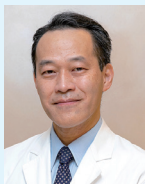


特色

- 新生児疾患、循環器疾患、悪性腫瘍、遺伝性疾患を4本柱とした高度先進医療の実践
- 全ての小児科疾患領域を網羅する充実した専門外来(先天代謝異常症、アレルギー、神経、循環器、血液腫瘍、内分泌、腎、膠原病、未熟児フォローアップ、小児精神など)
- アレルギー医療拠点病院・小児がん診療協力病院としての高度医療の提供
- 臨床心理士との連携によるこころの医療の推進

〈 専門分野の紹介 〉

未熟児・新生児



小林 正久

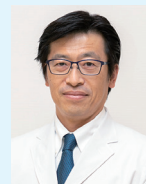
診療内容：

当センターのNICU部門は、東京都周産期医療ネットワークの一員として、総合周産期母子医療センターとして指定を受け、東京都内および都外近隣地域で出生した入院加療を必要とする新生児の受け入れを24時間体制で行っております。内科疾患にくわえて、外科疾患に関しても小児外科、小児心臓外科、小児脳神経外科、形成外科などと協力を密にしなが、手術などの外科的処置を要する新生児も積極的に受け入れております。また、救命救急的な治療もさることながら、赤ちゃんとそのご家族のQOLの向上を日常の医療の最重要課題と考えております。入院中における病棟内でのファミリーケア、ソーシャルワーカーを交えた社会的サポート、臨床心理士を交えた心理的サポートなど、赤ちゃんをご家族を中心とした包括的、全人的な医療を目標として努力しております。

得意分野・特色：

早産、低出生体重児、呼吸障害、心疾患、新生児感染症、低酸素性虚血性脳症、染色体異常、先天異常、外科疾患人工呼吸器管理、NO吸入療法、低酸素性虚血性脳症に対する脳低温療法や急性腎不全・代謝性疾患に対するなどの血液浄化療法、新生児緊急手術などの各種の高度集中治療にも対応いたします。

小児アレルギー疾患



田知本 寛

診療内容：

食物アレルギーは0歳代に発症することが多く、およそ10人に1人が発症しています。なかでも食物アレルギーの関与する乳児アトピー性皮膚炎型が多く生後早期に発症しています。乳児湿疹と診断されたもののなかなか改善しない乳児の中にこのタイプの食物アレルギー児が隠れていることがあります。まずは、スキンケア指導を行い症状の改善が得られないとき、その原因を追及します。食物アレルギーが疑われれば「正しい診断に基づいた必要最低限の食物除去」を基本に最低限の食物除去を行います。一度食物アレルギーと診断されてもご安心ください。およそ80%の症例は耐性獲得といって食べられるようになります。食物アレルギー診断された児は、専門外来に通院していただき耐性獲得を目指しています。食して症状のある期間は、日常生活していく上での注意点を指導させていただきます。

得意分野・特色：

食物負荷試験、アトピー性皮膚炎の診断・治療、気管支喘息

小児血液腫瘍疾患



秋山 政晴

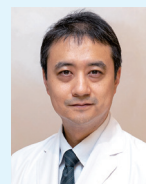
診療内容：

当院は東京都が指定する小児がん診療協力病院で、小児白血病に加え、小児外科系診療科との連携のもと、小児脳腫瘍や小児固形腫瘍の集学的治療も積極的に行っています。また、日本小児がん研究グループ(JCCG)の多施設共同臨床試験に参加しており、本邦において標準化された最新・最善の治療を提供しています。当院では大学病院の特色を最大限に生かし、成人領域の最新医療技術や科学的エビデンスを集結し、最善の小児・AYA世代がん医療を実践しております。特に機能予後を鑑みたハイレベルな手術や自家腫瘍細胞と樹状細胞を用いた新規融合細胞治療などの免疫治療にも力を入れております。また、患者さんやそのご家族を治療チームの中心におき、子どものこころや、ご家族のケアも、コメディカルスタッフや各専門家によるサポートも積極的に行っております。

特色：

発達支援、保育介入

小児循環器疾患

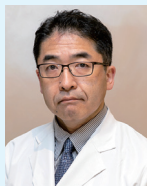


安藤 達也

診療内容：

先天性心疾患、後天性心疾患(川崎病冠動脈瘤、心筋炎、心筋症、不整脈など)の診断・治療を行っています。近年、胎児期に先天性心疾患を診断することが可能となっており、当院でも産科と連携しながら、胎児診断を積極的に行っております。出生前から心臓血管外科とも連携し、生まれてくる赤ちゃんのために計画的な治療を行っています。心疾患の一部には心臓カテーテル検査が必要であり、当院では2000年以降、1,000例以上の患者さんに心臓カテーテル検査・治療を施行しています。また、京都府立医科大学小児心臓血管外科、埼玉小児医療センター循環器科・心臓血管外科とも連携しながら、日本小児循環器学会専門医らが診療に従事しております。

先天性代謝疾患



小林 博司

診療内容:

先天代謝異常症とは生まれつきある特定の酵素がなかったりその働きが低下したりするために、生体内の物質やエネルギーが不足したり、または過剰に蓄積することでさまざまな症候を引き起こす遺伝性の病気です。慈恵医大小児科ではライソゾーム病を中心として先天代謝異常症全般に最新の医療を提供いたします。具体的には遺伝学的検査・生化学的検査による診断や治療適応決定、酵素補充療法・シャペロン療法・基質合成阻害療法などを実施しています。さらに2018年にオープンした遺伝診療部(川目裕診療部長)と連携し臨床遺伝専門医、認定遺伝カウンセラーによる患者さんやご家族への遺伝カウンセリングも行っております。

特色:

酵素補充療法、シャペロン療法、基質合成阻害療法などの先進医療、確定診断や治療のための生化学、遺伝学的検査

小児内分泌疾患



宮田 市郎

診療内容:

内分泌疾患とは、主に脳下垂体・甲状腺・副甲状腺・膵臓・副腎・性腺(精巣や卵巣)・骨・脂肪細胞などから分泌されるホルモンの量あるいは質の異常によって起こる病気であり、成長の障害を含め、さまざまな症状が認められます。具体的には成長ホルモン分泌不全性低身長症、下垂体機能低下症、中枢性尿崩症、甲状腺疾患(先天性甲状腺機能低下症、橋本病、バセドウ病など)、副甲状腺疾患、糖尿病、副腎疾患(先天性副腎皮質過形成症、アジソン病など)、性腺疾患(思春期早発症、性腺機能低下症)、性分化疾患、肥満症などがあげられます。さらに染色体異常(ターナー症候群やプラダー・ウィリー症候群など)や骨系統疾患(軟骨異栄養症)も含まれます。内分泌外来ではこれらの疾患の診断・治療を行っております。

得意分野・特色:

低身長症、甲状腺疾患、思春期早発症などの診断・治療

小児神経疾患



日暮 憲道

診療内容:

小児の神経疾患は非常に多彩で、脳・脊髄のみならず末梢神経や筋肉の疾患も含まれ、主要兆候としてはけいれん、てんかんがある、気になる動きをする、頭痛、力が弱い、体を動かさない、歩けない・歩き方がおかしい、意識や反応が悪い、寝ている時に気になる症状がある、発達が遅れている、言葉がでない、集団に上手く適応できない、言動や行動がおかしい、勉強についていけない、などさまざまです。当外来ではお困りの症状について、その軽重にかかわらず丁寧な問診を心がけ、専門的評価を行ったうえでお子さまにとってより良い状況となるよう努めます。疾患が多岐にわたるため、必要な場合にはほかの専門外来や部門、医療機関と密な連携をとり、包括的に診療いたします。

特色:

てんかん、てんかんを引き起こす各種基礎疾患(脳性麻痺、結節性硬化症、脳形成異常、代謝異常症)等

小児腎疾患



平野 大志

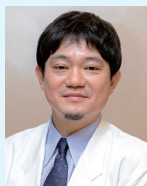
診療内容:

腎疾患は、さまざまな全身性疾患の初期症状として現れることも珍しくありません。なかなか原因の分からない日常生活におけるさまざまな症状が尿検査をきっかけとして確定診断に結びつくこともあります。そのような腎臓を窓口とした全身管理が私たち腎臓専門外来の役割と考えています。私たちの外来では、健診や学校検尿などの尿検査で血尿や蛋白尿を指摘されたお子さまだけでなく、胎児期から先天性腎尿路異常を疑われているお子さまから、夜尿、昼間尿失禁などで学校生活にお困りのお子さまやご家族まで、さまざまなきっかけで腎臓の病気を発見されたすべての患者さんを対象としています。

得意分野・特色:

検尿異常、糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、夜尿(夜のおもらし)、昼間尿失禁(昼間のおもらし)、頻尿、尿路感染症、泌尿器科疾患(先天性水腎症、包茎治療など)

小児集中治療部門



飯島 正紀

診療内容:

小児集中治療室(PICU)は小児病棟内に併設されている重症小児に特化した集中治療ユニットです。2019年末までは年間入室患者数100例程度でしたが、2020年4月以降6床運用、2021年より8床運用となり、200例の入室を予定しています。小児心臓外科、小児外科、小児脳神経外科などの術後が大部分を占めますが、小児内因性疾患の増悪による全身集中治療も実施しています。

特色:

経皮的肺補助(PCPS)・体外式膜型人工肺(ECMO)や透析、血漿交換などの侵襲的治療も行うことが可能です。2019年1月からは日本集中治療医学会ICU症例登録システム(JIPAD)事業にも参画しており、データの提供のみならず医療の質の向上および日本の集中治療医学の発展をめざしています。

すべての外科系疾患に対する専門外来と多部門診療チームによる365日24時間急患対応を実践

母子医療センターでは小児外科系専門診療部(小児外科・小児脳神経外科、心臓外科、形成外科)を擁するとともに、小児・新生児集中治療室(PICU/NICU)やその他の外科系診療科(泌尿器科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、麻酔科)など関連部門との連携により小児の外科手術を要するすべてのお子さんに対するグループ外来診療・チーム医療による入院治療を行っております。



特色

- 小児・新生児の緊急手術：365日24時間緊急体制を整えて対応しています。
- グループ診療
- 小児循環器一心臓外科外来
(小児心臓外科、小児循環器科)
- 内視鏡手術(小児外科、小児脳神経外科)の積極的導入
- 『あたまとかおのかたち外来：頭蓋顔面外来』
- 小児泌尿器疾患(小児外科、泌尿器科)
- 出生前診断と新生児期外科治療：超低出生体重児に対してはNICU内での手術体制を完備しています。
- 『ヘルメット矯正治療外来』(形成外科、脳神経外科)
- 小児脳腫瘍
- 二分脊椎・水頭症外来(脳神経外科、整形外科、泌尿器科)

小児外科



芦塚 修一

診療内容

- 胎児、新生児、乳幼児、学童などの15歳以下の頸部・呼吸器・消化器・泌尿器および婦人科疾患などを広く対象
- 異物誤飲、精巣捻転、腸重積症、鼠径ヘルニア嵌頓、急性虫垂炎などの急性疾患は24時間体制で診療
- 超低出生体重児に対してはNICU内での手術体制
- 小児がんに対する高度な診療を提供する医療機関として「東京都小児がん診療病院」に認定

小児脳神経外科



野中 雄一郎

診療内容

- 脳腫瘍、脊髄腫瘍、水頭症・二分脊椎症
- 血管障害：もやもや病や動脈瘤、脳血管奇形など
- 頭蓋骨縫合早期癒合症：頭蓋顔面骨疾患

得意分野・特色

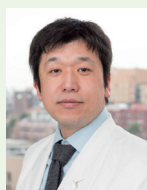
開頭手術をはじめ神経内視鏡を用いた手術(水頭症に対する第3脳室底開窓術、嚢胞開窓術、腫瘍生検術や摘出術)など、良好なQOLが望めるように安全かつ確実な手術を心がけています。

- 1 胎児期に診断された水頭症や二分脊椎症などの先天性疾患の外科治療
二分脊椎に対しては形成外科、整形外科と共にグループ診療を実施
- 2 頭蓋顔面奇形
形成外科とともに、頭蓋形成術や骨延長法を用いた頭蓋拡大術などを行っております。
- 3 脳腫瘍・脊髄腫瘍
診断から手術可否の決定、その後の治療・経過観察に至るまでを小児科血液腫瘍班の先生方と共に相互に協力し合いながら行っています。

得意分野・特色

- 1 出生前診断された新生児疾患に対する手術
- 2 漏斗胸に対するNuss手術(低侵襲手術：日本有数の手術数)
- 3 内視鏡(胸腔鏡・腹腔鏡・膀胱鏡)手術
胸腔鏡(漏斗胸・肺切除・縦隔および横隔膜手術)、腹腔鏡(噴門形成術・アカラシア手術・鎖肛・ヒルシュスブルング病など) 鼠径ヘルニアでは腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術(LPEC)、膀胱尿管逆流症(VUR)ではDeflux注入を実施しています。
- 4 小児泌尿器手術
水腎症、VUR、停留精巣、その他

小児心臓外科



益澤 明広

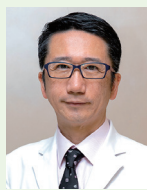
診療内容

- 新生児・チアノーゼ性心疾患を含むすべての先天性心疾患の根治手術・段階的姑息手術
- 小児・新生児の緊急手術の患者さんの受け入れは365日24時間緊急体制を整えて対応
- 超低出生体重児に対してはNICU内での手術体制(体重1kg未満最小340gの低出生体重児動脈開存症を含む)
- 成人先天性心疾患初回・再手術

得意分野・特色

2018年より術前診断から術後超急性期までの周術期管理全体を通じた小児循環器科、PICU、小児麻酔科、手術室など部門横断的なチーム医療を推進しています。

形成外科



宮脇 剛司

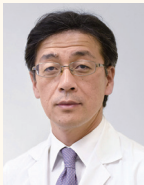
診療内容

手足先天異常や口唇、顔面の先天異常(唇顎口蓋裂、頭蓋骨縫合早期癒合症、耳介先天異常を含む頭蓋顔面領域の先天異常疾患)、外傷や変形、眼瞼下垂症、巨大母斑の治療など、広い範囲に渡り治療を行っています。診断や治療のために小児科、耳鼻咽喉科、歯科、矯正科、眼科、放射線科などと連携してチーム医療を行っています。必要に応じて臨床心理士による発達心理評価や、遺伝カウンセリングを行います。

得意分野・特色

- 1 頭蓋顔面領域の先天異常疾患に対する治療
アベール症候群、クルーゾン症候群、ファイファー症候群など頭蓋骨縫合早期癒合症の治療(グループ診療)
唇顎口蓋裂に対する各成長段階に合わせた必要な手術治療
- 2 手足先天異常3,500例以上の経験と術後の長期経過観察・評価に基づく四肢先天異常の治療
多指症・合指症をはじめ多彩な先天異常に対する外科治療 とリハビリテーション科、作業療法士(ハンドセラピスト)との密接な連携による治療効果向上

整形外科



齋藤 充

診療内容

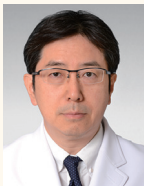
小児期における整形外科領域全般の先天異常の治療

- 関節疾患：先天股関節脱臼
- 外反母趾、先天性内反足、麻痺足など足部病変
- 二分脊椎、脊椎側弯変形など整形外科領域の診療
- 外傷の治療：手・肘の骨折、脱臼、神経・血管・腱断裂、神経障害など

得意分野・特色

- 1 二分脊椎に伴う下肢の麻痺・筋力低下、下肢の変形、股関節脱臼、脊椎側弯変形など脊椎疾患の診療
- 2 小児股関節疾患（先天性股関節脱臼とその治療後の遺残障害、ペルテス病、大腿骨頭すべり症など）の治療

眼科



中野 匡

診療内容

小児期の目の病気は早期発見・早期治療が重要です。未熟児網膜症のお子さまに対する診療や診断の難しい小児期の網膜変性や遺伝性疾患の診療にも力を入れており、あらゆる眼科疾患に対して、満足度の高い最先端医療をご提供できるように、高度専門知識を持ったスタッフが日々切磋琢磨して研究・臨床を行っております。

得意分野・特色

- 1 さまざまな網膜病変に対し最先端の心理物理学的・電気生理学的手法を用いて病態に応じた治療・生活指導
- 2 国の指定難病である難治性視神経症の診断・治療および病態解明に向けた研究
- 3 斜視弱視外来 4 未熟児網膜症部門
- 5 涙器・眼形成部門（先天鼻涙管閉塞・先天眼瞼下垂など）

耳鼻咽喉・頭頸部外科



小島 博己

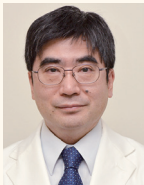
診療内容

当センターでは難聴の早期発見と療育を目的に、聴覚スクリーニング検査を行っています。当院は難聴児を早期発見する体制が整備されており、新生児聴覚スクリーニング後の精密聴力検査機関に日本耳鼻咽喉科学会より認定されています。また、中耳炎や副鼻腔炎をはじめとする炎症性耳鼻科疾患や睡眠時無呼吸症候群に対する手術加療も積極的に行ってまいります。特に、慢性中耳炎や真珠腫性中耳炎に対する聴力改善手術や難治性副鼻腔炎に対する内視鏡下鼻内手術は世界のトップレベルの技術と症例数を誇ります。睡眠時無呼吸症候群に対する手術においても、アデノイド切除術をはじめとし新しい手術方法を導入し治療にあたってまいります。

得意分野・特色

聴力スクリーニング検査、自動簡易聴力検査および精密聴力検査、新生児聴覚スクリーニング精密聴力検査、聴覚発達検査
原因診断：画像検査（CT、MRI）、遺伝子検査、療育

皮膚科



朝比奈 昭彦

診療内容

- アトピー性皮膚炎・乾癬に対する標準治療と生物学的製剤の導入
- 神経線維腫症の定期的診察、手術
- 疣贅に対する液体窒素療法、接触免疫療法、グルタールアルデヒド治療
- 血管腫、太田母斑などアザに対する保険診療およびシミに対する自費診療

得意分野・特色

- 1 難治例への生物学的製剤の積極的使用・神経鞘腫症に対する豊富な手術経験
- 2 各種アレルギー検査、紫外線照射装置、各種レーザー治療などの検査・治療に対応しています。

泌尿器科



穎川 晋

診療内容

小児泌尿器科疾患や神経泌尿器分野における診断と治療

得意分野・特色

- 1 二分脊椎グループ診療
二分脊椎のお子さんに対して、小児脳神経外科と共同で二分脊椎の手術前、手術後の膀胱機能・形態検査（ビデオウロダイナミクス検査）外来における導尿（排尿ケア外来）や洗腸（排便ケア外来）指導しています。
- 2 膀胱尿管逆流症による腎盂腎炎予防
小児外科と共同でデフラック注入を実施

診療支援部門 | 看護部



看護部長
小澤 かおり

産科看護

外来の妊娠早期から退院後の産褥期まで、継続したかわりを行っています。疾患や治療に伴う様々な苦痛や不安に対して、女性のライフサイクルを踏まえた細やかな対応ができるよう日々研鑽を重ねています。患者さんの回復ができるだけ早く進むこと、治療を続けながらも患者さんの望む生活が送れることを目標に、医療チームが連携をとりながら、患者さんの支援を行っていきます。産後は沐浴指導や授乳特に母乳哺育への自立を高めるための「母児同室制」を取り入れています。退院後の生活指導は集団指導のほか、お母様の状況をふまえた個別指導も取り入れています。助産師・看護師スタッフが丸となって妊婦さんとその家族そして新しく誕生した命を大切に関わっていきます。

小児看護

小児科一般床では、児の病状と成長・発達に合わせて病室を調整しています。入院という体験は苦痛を伴うものですが、安楽に過ごせるよう、発達段階に合わせた説明や遊びに通じて看護しております。また、リハビリテーション、保育士の計画的な介入、在宅に向けた医療チームによる介入を実践しております。NICU、GCUでは早産低出生体重児の呼吸・循環の早期安定をめざすとともに、成長発達を見据えたディベロップメンタルケアやカンガルーケアを行っています。また、小児専門看護師や新生児集中ケア認定看護師による知識と技術の教育指導により、根拠に基づいた重症児の看護ケアを実践しています。

入院施設と診療体制：

産科病棟・MFICU

N棟3F産科病棟の構成

入院病床：一般入院病床(28床：産後16床、産前12床)、母体胎児集中治療室(6床)
分娩部門：分娩室(3室)、陣痛室(6室)

スタッフ 医師

常勤医14名(産婦人科専門医:10名、周産期専門医:5名、臨床遺伝専門医:4名、超音波専門医:2名)
看護師・助産師:50名



ハイリスク分娩室



母体胎児集中治療室(MFICU)



産科一般病室:大部屋



産科一般病室:個室

母体胎児集中治療室

前置胎盤や重症高血圧症候群、産科危機的出血などハイリスクの母体・胎児に対応するための設備として母体胎児集中治療室(Maternal-Fetal Intensive Care Unit: MFICU)を完備しております。適切な監視のもとに24時間態勢で患者様の治療にあたります。

ハイリスク分娩室

出産は短時間のうちに急激に母児の状態が悪化する場合があります。集約的治療が必要となることがあります。そうした場合に備えて十分な広さ、設備、医療機器を備えた分娩室を準備し、患者様に対して迅速かつ的確な医療の提供を行います。

出生後の新生児の治療・ケアの提供

新生児科をはじめ、小児外科・小児循環器など小児の専門科の医師と緊密に連携を取りながら、適切な母体・胎児管理から出産後の新生児治療・管理につなげていきます。

小児病棟・NICU・GCU・PICU

小児専用病棟はN棟4F、5Fに小児一般病床(65床)、NICU(12床)、GCU(24床)、PICU(8床)の計109床を有します。無菌室2床(血液腫瘍疾患、幹細胞移植など)

スタッフ

小児科・小児外科系専任医師、看護師、看護補助員、保育士、専属病棟薬剤師

専属治療チーム構成

新生児集中治療部門(Neonatal Intensive Care Unit: NICU)

NICU12床およびGCU(Growing Care Unit)24床から構成され、NICU専属の小児科医8名が常勤しております。東京都周産期医療ネットワークの一角として、総合周産期母子医療センターとして指定を受け、東京都内および都外近隣地域で出生した入院加療を必要とする新生児の受け入れを24時間体制で行っております。

小児集中治療部門(Pediatric Intensive Care Unit: PICU)

重症急性疾患、呼吸循環不全、ショック、外科手術周術期管理など重症小児に特化した集中治療室ユニットです。2020年4月より6床運用開始、2021年より8床運用の予定です。

小児循環器診療チーム

先天性心疾患、後天性心疾患(川崎病冠動脈瘤、心筋炎、心筋症、不整脈など)の診断・治療を行って、京都府立医科大学小児心臓血管外科、埼玉小児医療センター循環器科・心臓血管外科とも連携しながら、日本小児循環器学会専門医らが診療に従事

小児血液腫瘍診療チーム

小児腫瘍専門医、小児外科・小児脳神経外科医などからなる小児腫瘍チーム。東京都が指定する小児がん診療協力病院。白血病だけでなく小児外科系診療科と連携し、脳腫瘍や小児固形腫瘍の集学的治療をおこないます。

小児総合診療チーム

小児救急をはじめとした急性疾患から、在宅医療・ケアサポートなどの慢性疾患における感染性疾患罹患時の管理、胃食道逆流症、胃十二指腸潰瘍、炎症性腸炎など消化器疾患、気管支喘息、食物アレルギーなどアレルギー性疾患、てんかん、急性脳症、脳性麻痺など神経疾患、ライソゾーム病、アミノ酸代謝異常症、ミトコンドリア異常症など代謝性疾患、低身長、思春期遅発症、甲状腺機能異常症、1型糖尿病など内分泌疾患、ネフローゼ症候群、急性腎炎、IgA腎炎など腎疾患、川崎病、IgA血管炎など膠原病・リウマチ疾患などのさまざまな疾患の診療にあたります。



NICU (新生児集中治療室)



GCU (新生児治療回復室)



PICU (小児集中治療室)

母子医療センター（N棟）施設図：



- 小児病床 …… 計109床
 - NICU:12床
 - GICU:24床
 - PICU:8床
 - 一般病床:65床
- 産科病床 …… 計34床
 - MFICU:6床
 - 一般病床:28床
- 小児外来・産科外来、小児・周産期ER

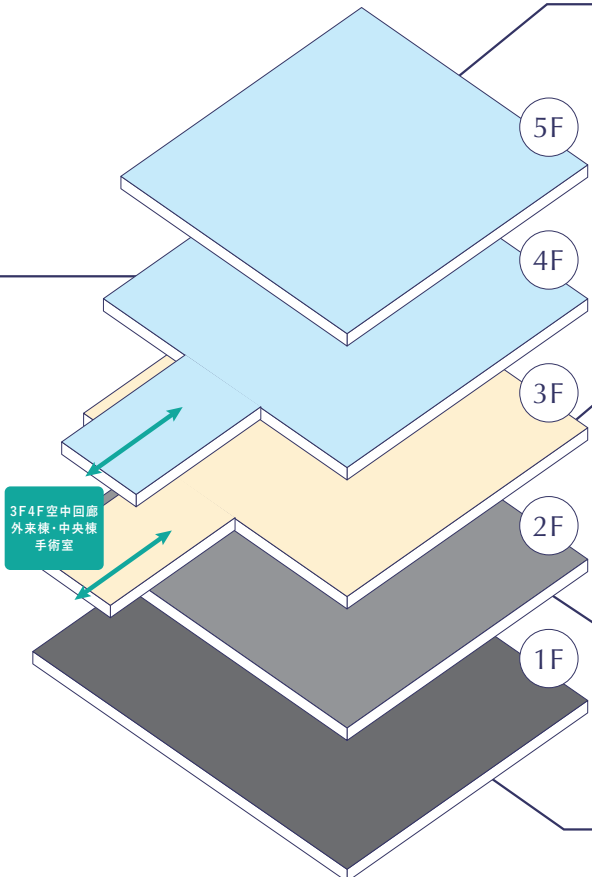
小児入院部門

- ① 一般病床：45床
 - ・陰圧重症観察室：2床（6512・6513）
 - ・無菌室：2床（クラス100+クラス10000）
 - ・24時間持続脳波専用個室：1床
- ② 感染症アウトブレイク対策
 - ・病棟の2分割可能（●北西エリア隔離）
- ③ 充実した院内設備
 - ・プレイルーム（+テラス）
 - ・小児リハビリ室
 - ・ストレッチャー用浴室
 - ・院内学級室
 - ・ふれあいスペース（デイルーム・デイコーナー2か所）
 - ・家族控室（付き添い者用シャワー室）
 - ・面談室：2部屋
 - ・カンファレンス室

新生児集中治療部門

感染対策およびプライバシー対策
→全床パーティションによる半個室化

- ① NICU（12床）
 - ・陰圧個室の整備
 - ・NICU内に手術室を整備
1000g未満の超低出生体重児や一酸化窒素吸入などの特殊な管理を要する児への手術などに使用
 - ・ファミリーケアルームの設備
院内外泊によるスムーズな在宅移行や看取りの時間/場所の提供
 - ・面談室/器材庫/検査室/調乳室
- ② GCU（24床）
 - ・慢性期人工呼吸器管理用病床
 - ・長期人工呼吸器症例用に3床確保



産科入院部門

一般病床（28床：産後16床、産前12床）
（うち陰圧重症観察室1床）

MFICU 6床（陰圧室1床）

分娩室（3床） 陣痛室（6床）
うちハイリスク分娩室・陰圧分娩室（各1床）

新生児室
処置室：2室
母親学級室

小児集中治療部門

PICU（8床）

- ・オープンベッド6床、個室2床
- ・陰圧/陽圧設定可能
- ・PICU内に手術室を整備
- ・部門システム：ACSYS

検査部門

CT MRI 生理検査

小児入院部門

一般病床（20床）

- ・乳児お預かり病室：3部屋（ガラス壁による視認性向上）
- ・家族控室（付き添い者用シャワー室）

外来部門

産科・周産期部門
産科外来

- ・診察室：3ブース/（面談室+内診室）
- ・超音波：2室
- ・NST検査室
- ・助産師外来

小児科部門
小児外来、専門外来、小児外科専門外来
診察室

- ・非感染エリア：診療室1～5
- ・感染エリア：●診療室6～11
- ・感染エリア：●陰圧室12～13

附属病院外来棟

● 整形外科	………	外来棟4F（4A）
● 眼科	………	外来棟5F（5J）
● 耳鼻咽喉・頭頸部外科	………	外来棟3F（3A）
● 皮膚科	………	外来棟3F（3B）
● 泌尿器科	………	外来棟4F（4J）

周産期小児ER

周産期救急処置室（救急対応：夜間休日）
小児救急処置室（救急対応：夜間休日）

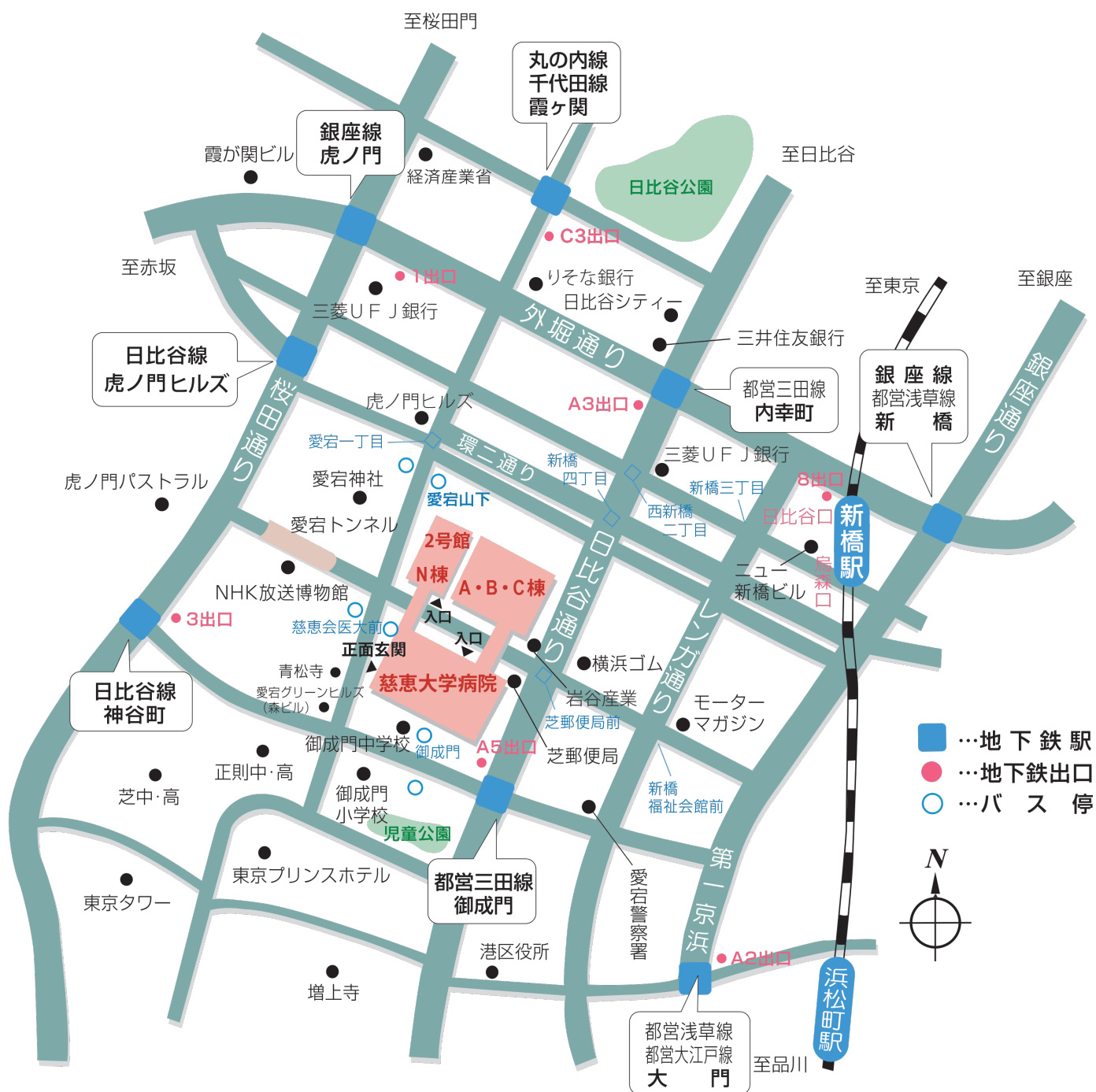
交通のご案内：

電車でお越しの方

- 都営三田線 …… 御成門駅(A5出口) 徒歩約3分
- 日比谷線 …… 神谷町駅(3番出口) 徒歩約7分
虎ノ門ヒルズ駅(A1出口) 徒歩約9分
- 銀座線 …… 虎ノ門駅(1番出口) 徒歩約10分
- 銀座線 ○ 都営浅草線… 新橋駅(8番出口) 徒歩約12分
- JR …… 新橋駅(烏森口) 徒歩約12分

バスでお越しの方

- 東98系統
東京駅南口→慈恵会医大前←等々力操車場
(約20分) (約50分)
- 港区コミュニティバス「ちいばす」
新橋駅～田町駅東口(芝ルート)
※新橋駅から慈恵大学病院まで約15分
「慈恵医大病院入り口」下車



診療案内:

○ 診察・受付時間、休診日

診療時間:月～金曜日	午前	午後	診療時間:土曜日	午前	午後
診療開始	9時～	13時30分～	診療開始	9時～	13時30分～
受付時間	8時～11時	11時～15時	受付時間	8時～11時	土曜日の午後は 受付を行っておりません

休診日

日曜・祝日、大学記念日(5月1日、10月第2土曜日)、年末年始(12月29日～翌年1月3日)

※診療科によっては、診療時間が異なる場合がございます。外来担当医スケジュールを合わせてご確認ください。

母子医療センターへの患者さんのご紹介について:

当院では、ご来院前に紹介元の医療機関(かかりつけ医)からFAX・Web予約をされることを推奨しています。 ※Web予約は母子医療センターの小児系診療科一部のみ予約が可能です。
患者さんが当院での予約受診を希望された際は、かかりつけの医療機関からの予約申込が必要となります。患者さんから予約取得のご相談がありましたら予約申込のご協力をお願いいたします。予約を済まされている方は、当日の受付がスムーズになります。

患者さんご自身での初診の予約は受け付けておりませんので、予約をお持ちでない方は直接お越しください。

検査や点滴が必要な急性期疾患の小児、小児系専門外来への受診の際は当院医療連携室経由で予約をお願いいたします。紹介状ご持参のみの際は、事前に母子医療センターにご連絡のうえ、ご来院の日時と担当医師を調整させていただきます。

1 FAX予約

FAX予約はいずれの医療機関からでも予約可能です。詳細については右記URLをご覧ください。

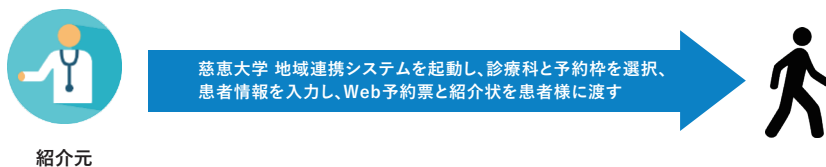
<https://www.hosp.jikei.ac.jp/medical/offer.html>



2 Web予約

Web予約は事前の登録・設定が必要になりますので、詳細については右記URLをご覧ください。

<https://www.hosp.jikei.ac.jp/medical/offer.html>



予約に関するお問合せ先

Tel. **03-5400-1202** (直通)

受付時間:月～金曜日 09:00～18:30、土曜日 09:00～17:00

休日:日曜日、祝祭日・年末年始(12/29～1/3)、
大学記念日(5/1・10月第2土曜日)

ホームページアドレス <http://www.hosp.jikei.ac.jp>



診療内容などに関するQ&A:

① Q. ウィメンズ、生殖外来は産科外来と診療に違いはありますか？

A. 産科は妊婦を対象とした外来です。妊娠していることが分かっている場合はN棟1F 産科外来にご案内いたします。妊婦健診、産後相談等も受け付けております。不妊治療や不育治療の場合は新外来棟4F 生殖外来(4K)、子宮筋腫などの婦人科系疾病の場合は新外来棟4F ウィメンズクリニック(4K)のご案内となります。

② Q. 一般小児外来と専門外来では診療に違いはありますか？

A. 原則として、患者様の主訴を確認し、心臓病、代謝系疾患等の診療科が特定できる場合、各専門外来をご案内しております。また風邪等の症状の場合は一般小児外来の受診をご案内しております。事前に診療科へ受診先をお問合せください。

③ Q. 小児科受診には年齢制限はありますか？

A. 原則15歳未満の患者様が受診可能です。ただしファブリー病や漏斗胸などの一部の疾患の患者様につきましては15歳以上であっても受診可能です。不明点がございましたら、事前に診療科にお問合せください。

診療内容などに関するお問合せ先

Tel. **03-3433-1111**(代表)